



「ゴールド
イルミネーション
ゴッデス」

「セレナーディア
アロマブルー」



進化し続ける！冬の主演花 シクラメンの魅力



シクラメンは戦後から最近まで鉢ものの生産額のトップの座にいました。現在はコチョウランに次ぐ第2位ですが、用途の大半が贈答用のコチョウランですから、自宅で愛でる鉢花として最も人気が高いのは、今もシクラメンであるといえます。花が少ない冬の室内で暮れから春まで咲き続け、彩りの少ない季節に艶やかな花色を楽しませてくれるのが人気の理由でしょう。また、時代にあわせて変化してきたことも長く人気を維持してきた要因です。布施明さんが歌う「シクラメンのかほり」が日本レコード大賞を受賞した昭和50年当時のシクラメンは、大半が大輪系の品種で、それも赤色のボンファイヤー（バーバーク）が過半を占めていましたし、当時の大輪系品種には香りがありませんでした。それが今では、花型も花色も驚くほどバラエティー豊かになっています。お気に入りの品種を見つけて、シクラメンの新たな魅力をぜひご堪能ください。



「プリティー
プリンセス レッド」



ながおか もともと
長岡 求

千葉大学園芸学部園芸学科卒業。花卉園芸学専攻。(株)フラワーオークションジャパン(F A J)取締役。NHKテレビ「趣味の園芸」講師、園芸誌や新聞に執筆のほか、講演などで幅広く活躍。

「セレナーディア
アロマブルー」

気品のある花色に加え、さわやかな
香りも楽しめる一重咲きの芳香種。



「セレナーディア®」
シリーズ

赤、白、ピンクに代表さ
れるシクラメンのイメ
ジを変えるようなブルー系のシクラメン
で、ブルーの花色は組織培養の過程で出
現したのが最初。大人っぽく優雅な印象
が楽しめる。



「セレナーディア
ビクトリア
ブルー」

花弁の縁に青色
が現れる一重咲
きの覆輪種。覆
輪が安定して出
てくれる。

おすすめ!
注目品種

シクラメンの花型いろいろ

- ノーマル咲き 丸弁で花弁が反り返る。
- フリンジ咲き 花弁の縁に細かい切れ込みがある。
- ウェーブ咲き 花弁が波打つもの。花弁の辺縁部にフリンジが入るものが多い。
- ロココ咲き 丸弁で反り返る花弁の辺縁部に強いフリンジが現れる。
- 八重咲き 花弁の枚数が多い。花弁が二重に並ぶ軽度の八重咲きは二重咲きといわれる。
- ベル咲き 花弁が展開せず、袋咲きともいわれる。
- ワリーギク咲き がく片が色づく。
- ビクトリア型 覆輪のフリンジ咲きで、古い品種ビクトリアに類似する品種群。

育種家の熱意と新たな技術が
シクラメンをさらに進化させる

最近ではシクラメンは毎年400以
上の品種が店頭に並びます。大輪のパ
ーシカム系とミニシクラメン系に大き
く分けられ、ミニシクラメンはポット
仕立てのガーデンシクラメンとして販
売されるものがあります。

さらに、パーシカム系ではかつて、
「夢の花色」といわれた黄色や青紫色
の品種や複色の品種が登場し、花弁に
ウェーブやフリンジがあるもの、色づ
くがくをもつ品種、八重咲き品種、強
い芳香が特徴の品種などもあります。
花型の特徴から上の表のように呼ばれ
ています。

花色に特徴のある品種も増え、花弁
に模様が見れる、バイカラー系も個性
的で人気があります。周縁部分に白色
などの縁どりがあるものを「プレーム
咲き」、白地に弁先にかけて色がのる
「ピアスタイプ」、線状の斑模様が入
る「ハーレカイン」などがあります。

また、花型や花色に関係なく、芳香
が特徴の品種があり、数は少ないもの
の、葉の表面に銀白色の模様が見れる
「レックスリーフ系」、葉の表面全体
が銀白色の「シルバリーフ系」など
個性的な葉をもつ品種群もあります。

シクラメンは日本全国で生産されて
います。そして、一部の生産者は盛ん
に育種し、その種苗をほかの生産者に
販売しています。前記のように多様な
品種が入手できるのは多数の生産者が

熱心に育種を行っている
からです。そのため、シ
クラメンには毎年のおよ
びに魅力的な新品種が登場
し、その中からヒットす
る品種が出ています。

一方、シクラメンを取
り巻くさまざまな技術開
発もなされてきました。
例えば、F₁品種が一般的
になったのはここ30年ほ
どのことです。組織培養
による栄養繁殖系品種が世
に出たのはここ20年のこと
です。

組織培養は切りとった小さな組織を
無菌の寒天培地で培養し、それをカッ
トするなどして増殖し、植物に再生さ
せる技術です。この技術の利用により
タネで殖やすことができな
い八重咲きや、実生から育てると
変異が大きく出現するもの
など、組織培養で増殖す
ることにより均質な植物体
を得ることができます。

シクラメンが進化を続け、毎年冬
の「鉢花の女王」として高
い人気を保っているのは、
育種家の熱意と技術開発
のたまものです。これから
先も、シクラメンのさら
なる進化から目を離せま
せん。

林園芸・
林康夫氏作出のシクラメン

父親の代から、かれこれ50年以上も高品質のシクラメンを安定的に生産されており、各地のシクラメン品評会であまたの賞を受賞しています。それを支えるのは高い栽培技術であり、病害虫のコントロールもしっかりできています。また長年、自家採種を続け、安定した品質の種子を得ていることから、確かな育種技術を有していることが分かります。

「ゴールド
イルミネーション ゴッデス」

黄花系の品種で唯一、フリンジがある。花色はレモンイエローで、花の中心に赤い目が入る。在来の黄花系品種に比べて葉数、花数が多い。



「ウィンク」シリーズ

群馬県の坂本園芸で育成された二重咲きの栄養繁殖系品種。花茎がやや短く、花を真ん中に寄せず、自然に咲かせた姿で生産される。結実しないことから1花の寿命が長いのも魅力。



「ウィンクホワイト」
清楚なピュアホワイトで、花咲く姿のナチュラルさが新鮮。

「プリティープリンセス」シリーズ

「プリティープリンセス フレグランス」
透明感のある淡ピンク色の花弁で縁に白いほかしが入る芳香種。



千葉県の大栄園芸で育種されたフリンジ咲きの品種で、花色の美しさが際立つ。愛子内親王が誕生された年に咲いたことから「プリンセス」の名前に。

「プリティープリンセス レッド」
発色のよいピンク～赤色の花弁の縁に白色が差し、華やかな印象。



シクラメンの管理ポイント

花を長く楽しむためには？

寒さには意外に強く、霜や雪を避ければ0℃前後の寒さでも耐えます。逆に、温かい部屋に置くと長もちせず、暖房を20℃前後に設定したマンションの室内では、ひと月ほどで咲き終えます。シクラメンを長もちさせるコツは適した置き場所を選ぶこと。関東以西の太平洋側ならば、光が差し込み、寒風や霜などを避けたベランダが理想的な環境ですが、そのような環境がない日本海側や寒冷地では、週3回以上日中に戸外へ出して日に当てることで長く咲き続けます。

また、冬の間も肥料を切らさず与えることもポイントです。液肥ならば週1～2回、水やり代わりに施します。

あるいは置き肥で肥料を与えるのも簡便です。水やりは、やや乾かしぎみに管理しますが、しおれるほどに水を切らさないように注意します。もし、水を切らしてしまつた場合は、手で花を真ん中に集めてから株元にたっぷり水やりします。ピートモス中心の用土で植えられたものはピートモスが水をはじくこともあり、20～30分鉢の部分を水に沈めて吸水させるとよいでしょう。花がら摘みや黄化した葉を取り除いて株を清潔に保つように気をつけてください。最近の仕立ては株の大きさに対して鉢が小さすぎる傾向

があり、もしそのような株を入手したときは一回り大きな鉢に植え替えると水切れや肥切れが起きにくくなります。

気をつけたい病害虫は？

シクラメンの大敵は灰色かび病や葉腐細菌病などの病気です。手入れが行き届いた、信頼できる生産者のものを入力することが第一で、日常の管理においては株を清潔に保つことが大切です。咲き終えた花や灰色かび病の症状が出た花、黄色くなつた葉はねじるようにして引き抜きます。また、水やりなどの際に花を濡らさないこと、葉や花が出る球根の上部を濡らさないようにすることも病害の予防ができます。

花が終わったあとの管理は？

花が咲き終わるころからできるだけ日に当てるよう心掛けてください。置き場所は雨が当たらない軒下などがよいでしょう。肥料もすっかりと施します。7月中下旬になり、最高気温が30℃を超える日が続く季節になると生育が衰えてきます。夏越しの方法は二通りあります。一つは水やりをやめて乾かすことで強制休眠させる手法で、もう一つは施肥をやめて半日陰に移動して夏越しする方法です。どちらも、8月下旬から9月上旬に植え替え、最高気温が30℃を切るようになるころから施肥を再開します。

「レイシーフリル ピンク」

ウェーブ系で、花弁の辺縁部分に細かなフリンジがある。そのフリンジはロココ系ほど強く、葉縁もフリンジ状になる。花色は明るいピンク色、横から見た時にこの品種のつややかさが際立つ。色変わりに濃い紫桃色の「レイシーフリル パープル」がある。



「ファンシーキャンディ」

従来にない、新しいタイプのストライプ柄のバイカラー系品種。桃色地に白色、線状のストライプが密に走る。ミニシクラメンとパーシカム系シクラメンの中間タイプのシクラメン（半ミニタイプ）なので、多花性で耐寒性も高く、丈夫で管理しやすい。

「センダラビット」

バイカラー系の代表品種ブルマージュに似た選抜品種。ノーマル咲きで白地に弁先がピーチピンクの配色となるが、ピーチピンクの部分の色濃く、また幅広い。株により色が上下半分に分かれる場合と、ストライプ状に分かれる場合がある。色変わりに白色と紫色の二色咲き「センダラ パープルスカイ」がある。

